



第15号

2025(令和7)年7月30日発行

編集・発行: 高崎市立中央図書館

〒370-0829 高崎市高松町 5-28

TEL 027-322-7919

FAX 027-324-3423

<http://lib.city.takasaki.gunma.jp/>

ホームページではカラーで見られます♪

図書館の仕事 やるベンチャーウィーク編

What is “やるベンチャーウィーク”？

・・・高崎市が推進している中学生の職場体験活動事業です。

市内全中学校の2年生を対象とし、様々な場所で奉仕活動や職場体験学習を行っています。

中央図書館では昨年度、春に2校4名、秋に4校7名を受け入れ、図書館の仕事を体験していただきました。

初日は緊張して動きの固い中学生達も、最終日には積極的に利用者に声掛けするなど、短い期間で目まぐるしく成長しています。

普段はなかなか見られない図書館の裏側を、驚いたり楽しんだりする中学生から職員も刺激をもらっています。

新聞装備



カウンター業務



予約資料拾い上げ



CDケース修理



✿ やるベンチャーの1日 (一例) ✿

8:30 朝礼

新聞装備・書架整理

10:00 カウンター業務

12:00 お昼休憩 ☺

13:00 CDケース修理

リサイクル図書整理

15:00 活動終了



リーディングトラッカー作成
(読書補助具)



写真はこの春のやるベンチャーウィークで活動してくれた中学生です。
秋にも受け入れ予定ですので、ご来館の際に中学生が活動していたら、
ぜひあたたかく見守りをお願いします。



令和7年度春のやるベンチャーからおすすめ本の紹介です！
中央図書館5階の階段下に掲示しているのでぜひ見て下さい。
秋のやるベンチャーのおすすめ本も、今後掲示予定です。



『推理大戦』

似鳥鶏／著
講談社



一つのコテージに世界各国から5人の人間が招待された。彼らは全員「特殊能力」を持つ名探偵。日本で発見された、世界中が欲する「聖遺物」を巡り、名探偵たちによる「推理ゲーム」が開幕する……。

「この人たち全員チートすぎるだろ！」と思わず口に出してしまうような登場人物たちと彼らの行う「推理」が魅力的。

あなたはこの物語の結末を「推理」できる？

「気がついたら一気に読みしている」、異能力ミステリ。

『Re:ゼロから始める異世界生活』

長月達平／著
KADOKAWA



主人公「ナツキ・スバル」が何度も”死に帰り”をする中で仲間たちと未来を生きていくための活路を探し、切り開いていくところがいい！

主人公は最強キャラじゃないし、ヘタレなところもあるし、何度も仲間や自分の死を体験するたびに、精神崩壊しそうになるけど、それでも仲間に背中を押され、ときには自分が背中を押すところがかっこいいです！！

けっこう救えなかった世界線もあり、つらくなりますがぜひ読んでみてください！

『ハイキュー!!ショーセツバン!! 10』

古舘春一／[原]著 星希代子／[ノベライズ]
集英社

漫画では見られない会話が見られるのがポイント!!

今まで興味を持てなかったバレーボールの分野が大好きになるきっかけになった。バレーボールの関心が深まる!!

試合で見られなかった人の思ってたこと考えてたことが分かりもっとハイキューを好きになった。ハイキューの中の推しを見つけられることがポイント!!

自分の推しを見つけよう!!



『モモ』

ミヒヤエル・エンデ／著
岩波書店



大都市のはずれにある円形劇場の廃墟に住むモモは街の皆と楽しく暮らしていました。しかし、段々皆の時間にゆとりがなくなっていく。ある日モモは人々に時間を節約させ、その時間を自分達のものにする時間どろぼうの存在を知り、それを止めるべく動き出します。

タイパが重視されている今こそ人々の心に響く大切なことを教えてくれる名作です。

ぜひ読んでみて下さい。

きっとあなたの心にも響くと思います。

『アムリタの饗宴』

坂本サク／原作 は一みっと／著
TO ブックス



死期をかぎ分けられる主人公”たまひ”。ある日友人たちと強烈な死の匂いを放つ巨大集合住宅にはいり、”何者か”に殺されてしまう…彼女たちの運命はどうなるのか！？たまひたちの友情と歴史を越えた異世界が入り混じる。

毎日がつまらないと感じた時に読むと全てがふつうではなくなり、スリルがあじわえます。たまひと”記鳴君”とのやりとりも、注目してみてください。人とのつながりを今一度見直せる本になっています。

ぜひ読んでみてください！！

『君が残した贈りもの』

藤本ひとみ／著
講談社



あまり人の死について考えていなかったけど、人の死について考えるきっかけになった。1日1日が大切なものだと感じ、日常生活は、かけがえのないものだと感じた。

青い鳥文庫のKZを小学生の頃に読んでいた人は続きとして、大人になったKZメンバーを見ることが出来るところがポイント！

読んでいなかった人もこの巻だけで事件が解決するから、シリーズを全部そろえなくても分かるところがポイント！

※KZ(カッツ)とは…青い鳥文庫から出版されている「探偵チーム KZ 事件ノート」のシリーズのこと。

写真でみる

高崎今昔

著・前高崎市立中央図書館長



最終回 小栗上野介と倉渕地域

再来年の NHK 大河ドラマの主人公は、高崎市の倉渕地域に深い関係を持つ「小栗上野介忠順」に決まりました。最終回は小栗上野介と倉渕地域について書いてみようと思います。

幕末、小栗はポウハタン号という船でアメリカに渡りました。その際アメリカ側との交渉の際に、天秤ばかりや算盤を持ち出し緻密な計量をしてみせ、アメリカ造幣局の役人をその迅速さと正確さで驚かせたというエピソードが残っています。

鳥羽伏見の戦いでは、江戸に逃げ帰った徳川慶喜に徹底抗戦を進言し、小栗は罷免されてしまいます。この時の小栗の作戦案を聞いた官軍の大村益次郎は、これが実行されれば官軍は負けただろうと語ったそうです。

このように切れ者だった小栗は新政府に恐れられました。隠遁の地として領地である倉渕、当時の権田村を選び、観音山というところに屋敷を普請する予定でいましたが、官軍により、まともな取り調べも弁明の機会も与えられず、烏川の水沼川原で斬首されました。今も非業の死を遂げたその場所には顕彰慰霊碑が立ち、「偉人小栗上野介罪なくして此所に斬らる」と標されています。

当時、身重だった小栗の妻は土地の者に守られ新潟を經由して会津の地に逃れました。小栗の父は新潟奉行を務め、その墓が法音寺というところにあります。以前訪れたことがあります。寺の人の話では逃避行途中、ここで一時の安らぎを得たということでした。



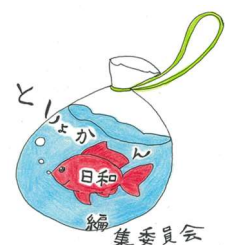
小栗上野介、又一父子の墓

小栗の墓は倉渕の東善寺にあり、寺には胸像があります。また、小栗が造った製鉄所跡地を臨む横須賀市のヴェルニー公園にも胸像があって、その業績を讃えています。

倉渕地域には小栗の縁で横須賀から多くの中学生が修学旅行で訪れていました。また、「はまゆう山荘」は横須賀市が建てた施設ですが、高崎市との合併を前に倉渕村に無償譲渡されました。

倉渕地域には、小栗の眠る東善寺、観音山小栗邸跡、小栗公が測量したと

いう小高用水など小栗にまつわる場所が多く存在します。是非、放映前に訪れてみてはいかがでしょうか。



図書館では小栗上野介について書かれた本を多数所蔵しています。本で小栗を知るのもおすすめです。

私も大河ドラマではどのような形で小栗が描かれてゆくのか、今から楽しみにしています。

※ 写真はすべて高崎市立中央図書館市史担当所蔵



終焉の地顕彰慰霊碑



小高用水